

# 町医者が診た透析の非導入と中止

忘れられない4人の患者さん

医学博士 長尾和宏

## 増え続ける透析患者

毎日新聞による公立福生病院の報道を受けて、さまざまなメディアが透析中止に関して論じている。しかし医療現場に身をおく立場からすればあまりにも現実離れした論評が多すぎる。現在、我が国において人工透析を受けている患者さんは33万人おられ、毎年、1万6000人に新たに導入され増え続けている。一方、海外では腎移植が積極的に行われている。本人負担だけでなく経済的にも腎移植のほうが圧倒的に有利だが日本においては移植医療はまだ根づいていない。透析に至る原因として半数以上が我が国に1000万人おられる糖尿病の合併症としての慢性腎不全である。以下、忘れられない慢性腎不全および透析の患者さんをご紹介します。

## 透析を20年以上 拒否し続けた72歳

大病院の腎臓内科部長からの紹介状にはこう書かれていた。「この患者さんは20年以上、人工透析を拒否しています。しかし全身状態不良で通院困

難となったため在宅医療をお願いしませう」という内容だった。一読して目を疑った。「20年以上透析を拒否?」。意味が分からん、であった。導入を勧められているうちにあれよあれよと20年も経過したのである。ベテラン専門医もまさかこんなに長生きするとは思わなかったのか。在宅主治医となった私も当然ながら改めて透析導入を勧めた。しかし患者さんは頑として拒否。家族も同意されていた。結局、3ヶ月後に尿毒症による昏睡状態に陥り自宅でお看取りさせて頂いた。また72歳だが大往生だった。

## リビングウィルで拒否した87歳

この方は日本尊厳死協会のDVDにも登場されている。自宅が透析病院の隣にあるのに本人は頑として透析を拒否された。大病院からの依頼を受け訪問すると余病がいくつかありすでに寝たきりであった。透析をしないと命に関わることを説明するも「リビングウィルを書いているから」の一点張り。私が日本尊厳死協会の役員であることを知らずに何度もリビングウィルの重要性を力説された。何度も家族会議を開くも状況

は変わらず、家族も徐々に本人の意思を尊重するようになった。結局、3ヶ月後に自宅でお看取りになった。10年以上前の話であるが、ご家族は現在も振り返りの会に参加されている。透析拒否での在宅看取りの一例目であったが、全員が納得された最期は、死後の家族の悲嘆も少ない。

## 中止し自宅で看取った老医

94歳の老医は直近まで診療されていたという。慢性腎不全のため全身状態が悪化し、家族に無理やり入院させられた。緊急透析が2〜3回施されるも本人は拒否して暴れるので「透析を継続できない」と判断された。自己退院に伴い在宅医療を依頼された。初回訪問時から「殺せ、殺せ」と怒鳴られたが、丁寧に全身倦怠感を軽減させる緩和ケアを行った。家族が入れ替わり立ち代わり説得するも本人は頑として透析を拒否。病院からは「透析しなければ1週間」と言われていたが、実際は3ヶ月後に在宅看取りになった。

## 101歳の「おひつりやま」

慢性腎不全で在宅に移行して3年

# 長尾和宏の「生」と「死」



**長尾和宏**  
(ながおかずひろ)

医療法人社団裕和会理事長、  
長尾クリニック院長

1984年 東京医科大学卒業、大阪大学  
第二内科入局

1991年 医学博士（大阪大学）授与

1995年 兵庫県尼崎市で長尾クリニッ  
クを開業、現在に至る

日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス  
在宅ケア研究会理事、日本尊厳死協会副  
理事長、全国在宅療養支援診療所連絡会  
世話人、関西国際大学客員教授  
[医学博士]

日本消化器病学会専門医、日本消化器内  
視鏡学会専門医、指導医、日本在宅医学  
学会専門医、日本禁煙学会専門医、日本  
内科学会認定医、労働衛生コンサルタント

## 【著書】

『平穏死・10の条件』（ブックマン社）、『抗  
がん剤・10のやめどき』『糖尿病と膵臓  
がん』（ブックマン社）『胃ろうという選  
択、しない選択』（セブン&アイ出版）『が  
んの花道』（小学館）『抗がん剤が効く人、  
効かない人』（PHP 研究所）『大病院信仰、  
どこまで続けますか』（主婦の友社）な  
ど。[医学書] スーパー総合医叢書・全  
10巻の総編集（中山書店）など多数。

が経過した。まったくの「おひとり

さま」であったので24時間定期巡回  
型訪問看護・介護システムを使い在  
宅療養を支えた。透析拒否の理由  
は「体に傷を入れたくない。このま  
ま自宅で自然に逝きたい」であつ  
た。ケアマネが主導して何度も家族  
会議を繰り返したが意思は変わらな  
かった。子供さんが80歳代の要介護  
2なので参加できなくなった。結  
局、事前に想定したように朝9時に  
ヘルパーが入った時にベッドの上で  
まさに眠るように亡くなっていた。  
101歳の穏やかな最期であったが  
死亡診断書には「慢性腎不全」と書  
いた。約20年と長く主治医をさせて

頂いた。

## 中止した要介護5の 認知症の92歳

この方も20年前からご縁があつ  
た。透析が導入された当初は歩いてい  
たそうだが数年後には要介護5になつ  
ていた。ほぼ寝たきりの状態なのに車  
椅子で週3回半日座る透析を以前から  
嫌がっていたという。そしてある日、  
頑として「絶対に行かない」と拒否さ  
れる事態に。「もう寿命ですわ」と諦  
めた家族は在宅医療を依頼してきた。  
透析医からも「限界なので中止はやむ  
を得ない。在宅看取りを」という旨の

紹介状を頂いた。自宅に伺い久々にお  
顔を見ると変わり果てていた。認知症  
の症状はあるが、私の名前はすぐに  
た。「透析は絶対イヤ」とはつきり言  
われた。訪問看護師が連日伺い、全身  
倦怠感を取る健和ケアを行った。結局、  
在宅開始した1ヶ月後に自宅で旅立た  
れた。

## 現実を知って欲しい

このように透析の非導入や中止は私  
のような町医者であっても何例か経験  
している。約1300人の尊厳死（平  
穏死）のなかの一部。ごく自然な終わ  
りで、日常である。本人・家族と何度  
も話し合つての結果であるので、亡く

なつた後もなんの問題もない。相当な  
時間が経過しても会えば思い出話に花  
が咲く。本人の意思を尊重し家族会議  
で決めた納得死は、家族の悲嘆が少な  
いことは町医者歴25年の経験知であ  
る。

しかし透析中止をスクープとして  
報じたメディアはいまだに騒いでい  
る。安楽死、犯罪、殺人、裁判、医  
師免許剥奪……。すべて間違いである。  
私は当初からメディアに対して「な  
にが問題なのか」と疑問を呈してき  
た。私の日常を知って頂いたうえで  
再考して欲しい。それが天国におら  
れる患者さんたちへの供養だと思  
う。